



ともに生きる社会の担い手となる子どもたちに
「あたたかい心」や「いのちを大切に
する心」を育むため
「いのちの授業」を学校から
家庭・地域へ広げましょう

かながわ「いのちの授業」 ハンドブック

概要版

神奈川県教育委員会
令和6年3月(改訂)

「いのちの授業」とは

学校や、家庭、地域では、あらゆる教育活動を通して子どもたちに、「いのち」のかけがえのなさや、夢や希望をもって生きること、人への思いやり、互いに支え合って生きることの大切さなどを実感してもらおう、様々な「いのちの授業」を行っています。

子どもたちは、気づき、考え、そして行動へ

様々な「いのちの授業」を通して、子どもたちは大切なことに気づき、考えを深めていきます。これまで県教育委員会に寄せられた子どもたちの作文の中からいくつかを紹介します。

神奈川県「いのちの授業」大賞 応募作品より 一部抜粋

助産師さんの話を聴く

小学校

「しあわせなきもち」 小学2年生

ぼくはなきながらお母さんをギュッとだきしめました。なぜかという、「ぼくがおなかにいる時に大切にそだててくれてありがとう。」という気もちをつたえたかったからです。ぼくは今、家ぞくみんなでいっしょにくらせて、とてもうれしいと思いました。

昆虫の飼育

小学校

「はじめてのカブト虫のしいく」 小学2年生

ぼくは、今年の夏、クワガタとカブト虫をかうことにしました。

「いのちはかんたんなものじゃない、大きくても小さくても、おなじく大せつなものだよ。」と、お父さんに教えてもらいました。

まい日、おせわは大へんだけど、クワガタになった気もちで考えたり、そだて方をべんきょうしたいと思います。

戦争体験の話を聴く

小学校

「命と夢」 小学6年生

命は夢だと思う。そして、夢は生きる希望、平和につながると思う。いつ戦争、テロ、民族紛争が起きてもおかしくない地域に住む人たちは夢をもつことなんて、簡単なことではないはずだ。しかし、世界中の人が夢をもちたいと同じように思うことができれば、違う考えをもつ集団との争いが少しでも和らぐのではないだろうか。

私は、全宇宙にたった一つしかない自分の命、自分の夢を、これからも大切にしていきたい。

赤ちゃんについての話を聴く

小学校

「ぼくの妹」 小学3年生

妹たちは早く生まれたから、体温を調せつするのが苦手で、保育きというはこの中に入ってすごしていたこと。とちゅうで息をするのをわすれてしまうので、人工こきゅうきというきかいをつけて、こきゅうをたすけてもらっていたこと。さいしょはお母さんのおっぱいをちよくせつのもことができなかつたから、細いくだを口にを通して、一ミリリットルのミルクを時間をかけて注入していたこと。ほかにも、ちゅうしゃをしたり、点てきをしたり、いろいろなけんさをたくさんして、おうちでみんなですごすためのじゅんぴをしていたことを知った。いたいことをいっばいされて、たくさんのおちりょうをのりこえてきた妹たちの力強さをかんじた。

命のつながりについて考える

小学校

「いのちについてかんがえたこと」 小学1年生

ぷうは、しんでしまいました。とてもかなしくて、いまでもおもいだすとないてしまいます。

どうしてこんなかなしいのか、ぼくはおかあさんとかんがえました。まだいっしょにいたかったからだとわかりました。でも、いのちはずっといっしょにいられないということをぷうにおしえてもらいました。

でも、ぷうはいろんなところにいます。ぷうのほねは、おはかにいれずにいえにもってかえりました。ぼくたちがせいちょうするのをみられるようにです。ぷうのことをおもいだすと、てがみをかいてそこにもっていきます。ぷうは、ぼくのころのなか、おもいででなかにいます。ころのなかやおもいででなかにでは、ずーーといっしょです。

当たり前ではないこと	中学校
「大切に思われて」	中学 1 年生
<p>「誰かに、自分の話を真剣に聞いてもらうという事は、自分をわかってもらった感じがして、嬉しい気持ちになるということ」にヒントがあると思った。それは自分を大切にしてもらっていることと似ている。人間は、誰かに認めてもらって、大切に思ってもらえることで、人として豊かに生きていけるものなのだろう。</p> <p>私は、大切に思われて、何て恵まれた環境に生きているのだろうと改めて実感した。</p> <p>私が私に生まれて、本当に幸せだったと感じた道徳の授業だった。</p>	

違いについて考える	中学校
「ともに生きる社会かながわ憲章」	中学 2 年生
<p>私は、「違うは悪いことじゃない」と言われた瞬間、ハッとしました。自分は、自分の中で「当たり前」という自分勝手な基準を作っていたのかもしれないと思いました。私の思っている「当たり前」は、他の人には「当たり前」ではないかもしれない。</p> <p>私は、自分自身の中で基準を作らず、人と接することで、自分の友達が増え、もっとおもしろい生活が送れるんじゃないかと思いました。</p> <p>これからは、私の中での「当たり前」を解き、生活していこうと思います。</p>	

障がいについて考える	中学校
「人それぞれ同じ人はいない」	中学 1 年生
<p>私は障がい者といって、別々にされるのは違うと思います。だって障がいがあってもなくても、みんなこの地球上にいる人間だからです。人それぞれの人生の生き方、人それぞれの個性、障がいがあるかないか、同じ人なんて決していません。だからこそ差別をせずみんながみんなのことを理解してこれから先、生活していくことが大切だと思います。</p>	

戦争について考える	中学校
「本当の平和へ」	中学 3 年生
<p>私達にできることは何だろう。まずは身近なことから考えてみてほしい。自分の意見を押しつけてはいないだろうか。誰かの事を否定してしまっていないだろうか。今からでもまだ間に合う。ほんの小さなことでも良い。少しずつ、身近なことから自分の意識を変えていくのだ。「本当の平和」を創ること</p>	

東北被災地への修学旅行	高等学校
「一生の思い出」	高校 2 年生
<p>東北で被災された方と触れ合ったこの体験を通して、将来の夢である看護師に絶対になり、体のケアと共に心のケアとして優しい言葉をかけられる看護師になってやると強く思いました。本当にこの体験は一生心に残ると思います。</p> <p>この企画を提案してくださった先生、本当に感謝しています。私が目指す看護師像が定められたことに。私が思い描く看護師になれるよう日々学び、努力をしていきたいと思っています。</p>	

歌から戦争について考える	高等学校
「カンタータ『土の歌』を鑑賞し、調べ学習を通して」	高校 1 年生
<p>今、戦争を体験しない時代になり、あの恐ろしさを知る人が少なく、また同じ間違いをしてしまいそうです。それを少しでも避けるためにこの歌が生まれたのだと思います。歌は、どの時代になっても継がれていきます。歌詞やリズム、長調、強弱などいかに伝わりやすくするかを魂を込めて作られたと思います。</p> <p>私はこの歌が歌い継がれていくことを願います。</p>	

♥ 学校での「いのちの授業」を参観しましょう。

♥ 「いのちの授業」を受けた子どもに、感想を尋ねてみましょう。

かながわ いのちの授業

検索

県教育委員会のホームページで「いのちの授業」のハンドブックや実践事例、児童・生徒の作文などを見ることが出来ます！



かながわ「いのちの授業」ハンドブックについて

県教育委員会では、「ともに生きる社会かながわ憲章*」の理念を踏まえ、各学校における「いのちの授業」のより一層の充実のため、副教材に指導ガイドを盛り込んだハンドブックを平成29年12月に作成し、各学校に配付しました。さらに家庭や地域でも活用してもらえよう、県教育委員会のホームページに掲載しています。

*本リーフレットの裏面に「ともに生きる社会かながわ憲章」を掲載しています

ハンドブックの主な内容

「いのち」の捉え

今ここで生きていることの「偶然性」や、一度失っては取り返しのつかない「有限性」、過去から現在、そして未来へと連綿と受け継がれていく「連続性」など、様々な観点から『いのち』を捉えることが重要です。

めざす子どもの姿

めざす子どもの姿を、「自分の『いのち』を大切にする、他者の『いのち』を大切にする」としました。そして、『いのち』を大切にする心が、子どもの言動や姿に現れていくことが重要です。

学びのプロセス

気づく

考える

行動する

「気づく」…無意識だった『いのち』を意識すること

「考える」…他者や教材との対話を通じて『いのち』の捉えを広げたり、深めたりすること

「行動する」…自他の『いのち』を大切にする行動をとること

実践例

誰もが読みやすい「副教材」と、考えを深める道筋のヒントとなる「指導ガイド」を掲載しました

幼稚園

『いのち』とのであい（飼育体験） 『いのち』に触れて『いのち』を大切にしたいという気持ちをもつ。

小学校低学年

「まりちゃんとおさがお」（読み物資料） 『いのち』のつながりに気づき、『いのち』への感謝の気持ちをもつ。

小学校中学年

「命」（児童の詩と絵） 限りある『いのち』を大切に精一杯生きようとする気持ちをもつ。

「かわいそう」「しかたがない」「あたりまえ」（ワークシート資料） 人が生きていくことと他の生き物の『いのち』とのつながりについて考える。

小学校高学年

「命てんでんこ」（生徒作文） 自然災害から自他の『いのち』を守るためにできることを考える。

「その思いを受けついで」（読み物資料） 身近な人の死から『いのち』のつながりや、今をどう生きるかを考える。

中学校

「耳澄まし静かな野球」（新聞記事） 互いに思いやり、支え合い、ともに生きることの大切さに気づく。

「知命」（詩） 多くの人とのかかわりの中で、どのように人と接していくかを考える。

「一冊のノート」（読み物資料） かけがえのない家族の存在に気づき、家族への接し方を考える。

高等学校

「成田真由美さんと競泳」（読み物資料） 困難を乗り越え『いのち』を輝かせる強さや素晴らしさを考える。

「ともに生きる社会かながわ憲章」 憲章に込められた思いを感じ、共生社会の実現に向けて自分ができることを考える。

「いのちの授業」を学校から家庭・地域へ広げましょう

いのちとは、「生命」を表す他に「唯一のよりどころとなる最も大切なもの」という意味で用いられることがあります。子どもたちは様々な人間関係や経験を通じて、相互を思いやる心を学び成長していきます。

私たちも、「あなたがここに存在している、それだけで充分素晴らしいことなのだ」と、日々の家庭や地域生活での「いのちの授業」を通して、自身と相手の大切ないのちを感じながら過ごしていきたいですね。

神奈川県 PTA 協議会 令和5年度 会長 小林 真希

学校から持ち帰った啓発チラシを見ながら、子どもとスマホの「使い道」について話し合いました。子ども自身にも、親にプレーキをかけてほしい気持ちがあったようで、久しぶりにじっくり話を聴けました。



朝の登校の見守りをしています。子どもたちとの「おはよう」で、地域の子どもがだんだんと愛おしく感じます。私の子どもも地域の方に声をかけてもらおうと「心が温かくなる」と言っています。



地域で「親子ふれあい体験」として、じゃがいもを育てて収穫しています。「いのちあるものを丹精こめて育てることの素晴らしさ」をこれからも伝えたいです。試食会での「美味しい」笑顔の輪は、地域の活性化にもつながると信じています。



消防署に見学や体験学習に来てくれた子どもたちに「いのちを守る」話をしました。真剣に話を聴く子どもの顔を見ていると、私自身が「つながっていく、かけがえのないいのち」を実感します。



障がい者支援施設で働いています。子どもたちが訪問し、歌や手紙で楽しい一時を過ごします。同じ地域に暮らす仲間として自然な交流を続けたいです。



- ♥ 「いのちの授業」は特別なものではありません。
- ♥ 子どもたちとの何気ないかかわりの中で、大人と子どもが、一緒に『いのち』に気づき、『いのち』を考えてみることが大切です。

家庭・地域の皆様へ

- ♥ ハンドブックの感想をお聞かせください。
- ♥ 家庭や地域での「いのちの授業」や、子どもと『いのち』について語り合うなどの事例を紹介してください。
- ♥ 「いのちの授業」大賞作文にご応募ください。(対象は児童・生徒です)

問い合わせ先

神奈川県教育委員会 教育局
支援部 子ども教育支援課

〒231-8588 横浜市中区日本大通1東庁舎6階
電話：045-210-8292 FAX:045-210-8937

いじめの傍観者について

「いじめのこわさ」 小学6年生

私は六年生の一学期に、道徳の授業でいじめについて勉強しました。いじめは、「被害者」「加害者」「傍観者」の三種類に分かれます。私は全て体験したことがあります。

被害者、つまりいじめられた人の事。私は仲間外れにされたと感じたことが今までに何度かありました。仲間外れもいじめの一つだと思います。そんな時私は、悲しい気持ちになります。

加害者、つまりいじめてしまった人の事。私はゲームで友達にいやがらせをしてしまったことがあります。いやがらせもいじめの一つです。友達にいやなことをしてしまってとても後悔しています。

傍観者、つまり周りで見ている人です。私は授業でいじめを見たらどうするかと聞かれ、止めたいけれど自分にターゲットが回ったらいやだと思う。しかし、がんばって止めたいと答えました。そうしたら先生からは、「とても正直です。周りの人にも力を借りられると、勇気がわいてくるかもしれませんね。」とアドバイスをもらいました。

いじめが原因で命を落とした人がたくさんいます。ある調査では、若者の約三割が「本気で自殺したいと考えたことがある」と答え、その原因として約五割が「学校問題」をあげていて、また、その中で最も多い原因は「いじめ」だそうです。この結果を知って私は、こんなにも多くの人が自殺したいと考えたことがあることに、とてもおどろきました。いじめはよくないものだと思えました。

いじめをなくすためには、一人一人が周りの人たちに思いやりをもって接することが大事だと思います。私も周りの人たちにいやな思いをさせないように気をつけます。そしていじめを見つけた時は、先生に教えてもらった通り、勇気を出して声を出してみようと思います。

いじめの「四層構造」

かながわ「いのちの授業」
指導資料は、こちらから



いじめは、「いじめる側」と「いじめられる側」以外の「観衆」や「傍観者」の立場にいる人が大きく影響しています。



傍観者は、いじめが起きていることを知っているのに何もしない人のことです。

被害者から見ると、いじめの支持者となることがあります。

いじめを批判的にとらえ、いじめを止めるための行動をとる仲裁者が増えることが、いじめをなくすために必要なことです。



ともに生きる社会
かながわ憲章

KANAGAWA CHARTER for an Inclusive Society

- 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
- 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます

ともに生きる

翔子

*本県の取り組みや金澤祥子さんの席上揮毫の動画などは、こちらから。

ともに生きる社会かながわ

検索

